

科目名		発声				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科・コース		全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。				
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
11	テスト			滑舌課題確認テスト		
12	外郎売			暗唱		
13	外郎売			暗唱		
14	外郎売			暗唱		
15	外郎売			暗唱		
16	テスト			外郎売テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
6	身体トレーニング6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
7	身体トレーニング7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
8	身体トレーニング8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
9	身体トレーニング9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
10	演技トレーニング1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動10年以上。			

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせろ。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴	作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数				

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やプレスを調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%		声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	映像				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 撮影・編集の基本的知識 3. スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)	スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明				
2	カメラ・編集機材の説明		使用方法		
3	撮影		撮影の基本的知識		
4	撮影		カメラワークについて		
5	撮影		サイズと照明効果		
6	撮影		10カット撮影してみよう		
7	編集		ソフトの選び方		
8	編集		カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集		カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集		撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作				
14	作品制作				
15	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴	新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務				

科目名	照明				
担当教員	新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏			実務授業の有無	○
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	一	単位時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)	安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について		舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化		機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類		各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基本知識		図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り		吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編		オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設置。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編		灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス(当たり合わせ)		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方		図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習(テスト)		前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい		休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ		演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン		音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出		演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材		演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ		照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ		照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴	新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家				

科目名		音響			
担当教員	株式会社サウンドエイト長谷川 辰也	実務授業の有無	○		
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 音響機材の使用法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ		映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ		音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ		録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ		ブームの使用法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ		スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ		アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ		アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ		ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ		ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。			



科目名	制作				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)	学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ		イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ		イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ		公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ		企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ		演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ		いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ		様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	イベント企画Ⅵ		アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ		仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ		イベント論1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ		イベント論2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ		イベント論3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ		出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ		出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ		スタッフ進行表について		
16	総括		実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて28年の指導、MBAホルダー				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	10時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生の実作作品をチェックしながら具体的改善的指導する。				
学習目標 (到達目標)	自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ		筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ		立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ		効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ		著名な演出家		
5	演出論Ⅱ		歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ		創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か		画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か		視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて		なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて		フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品（5分）制作		各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品（5分）の編集チェック		各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の良し悪しの指導を行う。		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30%		編集チェックの作品は自身の作品であること。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		また、作品の提出は何本でも可能である。			
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師				